ロクでなし魔術講師と絵画回想（ギャラリーレコード）

三嶋くろね画集 vol.2

Reminiscence paintings of bastard magic instructor
Mishima Kurone Art Book







ロクでなし魔術講師と絵画回想（ギャラリーレコード）
三嶋くろね画集 vol.2

Reminiscence paintings of bastard magic instructor
Mishima Kurone Art Book



Comment

グレンの教師服を纏って自信に満ちたシスティーナです。

ドラゴンマガジン2018年9月号
表紙　2018年

特務分室メンバーが全員そろったイラスト、実は描いたことが無かったのですよね。というわけでここで描かせて頂きました。この頃はきっと、セラとバーナードさんがムードメーカーだったのかも…？

帝国宮廷魔導士団特務分室
描き下ろしピンナップ　2021年

セラのウェディング姿です。幻になってしまいましたが、どこかでこんな世界線があったら良いな、と願いながら描きました。

セラ＝シルヴァース
描き下ろしピンナップ　2021年

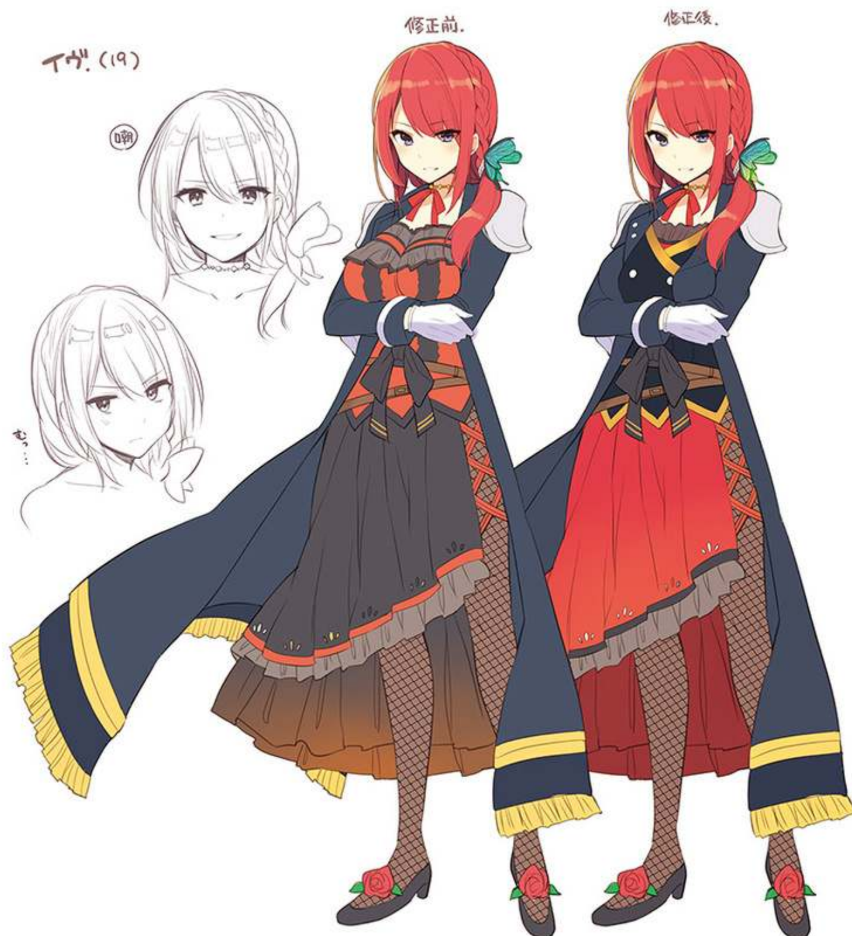
Character introduction

Contents



イヴ＝イグナイト

Eve Iggnite



Comment

プライドの高そうな、不敵に笑う女性のイメージでデザインしました。11巻以降はとある事情で塞ぎがちな表情をしていますが、初登場時は大分自信に溢れた表情にしてますね。グレンと同い年なので、あまり大人にしすぎてしまわないように心がけています。プライベートでもあまり表情を緩めることはなく、いつもツンとした雰囲気を漂わせてそうですよね…それがあるからこそ、いざ崩れたときにもグッと来るキャラクターだと思います。

イヴ＝イグナイト
ロクでなし魔術講師と禁忌教典(アカシックレコード) 7
カバーイラスト　2016年



セリカ＝アルフォネア

Celica Arfonia

Comment

一見めちゃくちゃ美女だけど癖のありすぎるセリカは、「ロクでなし」の中でも上位に入る好きなキャラクターです。１巻発売前にデザインさせて頂いたのですが、デザイン的には一番気に入っているかもしれません。とにかく色んな意味で強い女性なので、その行動に合わせて表情を描くのがとても楽しいですね。どんな形であっても、彼女には幸せになってほしい…！

セリカ＝アルフォネア
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
カバーイラスト　2020年

ロクでなし魔術講師と禁忌教典
口絵　2014年

アルベルト＝フレイザー

Albert Frazer



Comment

グレンのかつての同僚で、相棒という位置付けでデザインしています。アルベルトも、リィエルと同様に羊先生から「こんな感じで！」とキャラクターのラフを頂いていたので、できるだけ沿った上で今の形になりました。本編４巻のカバーイラストは、ライトノベルにしては珍しい「男性キャラのみの表紙」として描かせて頂いたのですが、初めての機会でしたので世に出るまでドキドキしていたのを覚えています。

アルベルト＝フレイザー
ロクでなし魔術講師と禁忌教典４
カバーイラスト　2015年



セラ＝シルヴァース
Selah Silvers



Comment

セラは…どこまでここで語っていいのか迷いますね──！　色んな意味で罪な女性だな、と。キャラクターデザイン的には割とすんなりデザインが完成したキャラでした（銀髪というのもあり…）。設定的にそこまで描く機会は多くありませんが、だからこそ描く際には毎回気合を入れています。いつも優しい表情をしてるので、他にも色んなシーンで描いてみたい女性キャラですね。

セラ＝シルヴァース
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 5
口絵　2015年

Column　Badges



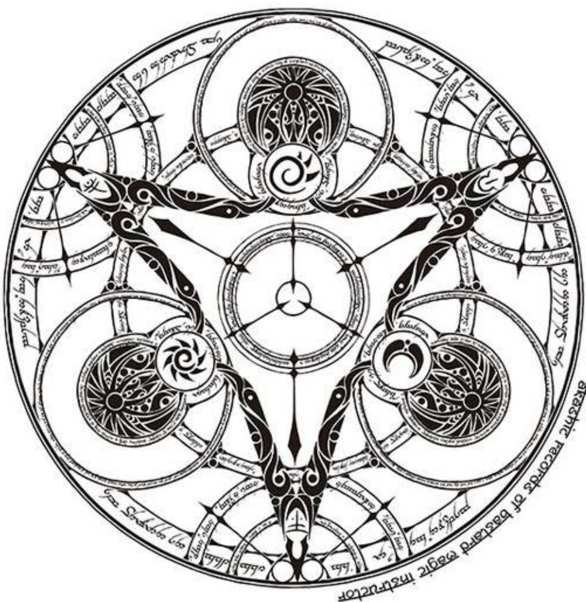
梟の紋章



蛇の紋章『短剣に絡みつく蛇』



双生児（タウム）の紋章『天空の双生児』



魔方陣



アルザーノ帝国魔術学院校章

Original work
13 to 18

Contents

Comment

いつもはマイペースなリィエルですが、グレンに抱えられてぐったりとしていますね。ピンチ回です。この巻のグレンVSアルベルト戦が熱すぎて、読んでいてとってもわくわくしました…！　可愛い女の子のやりとりも好きですが、少年漫画のような熱さもあるのがこの作品の魅力だと思います。ただの感想になってしまいました。

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
カバーイラスト　2018年





Comment

魔術師としての才覚を現したシスティーナと、それに憧れるエレンです。システィーナは元々の才能もありながら、努力を諦めずに能力を伸ばしていく様子、エレンはそれに追いつこうとしつつも追いつけない…という悔しさを表現したりしてます。

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
カバーイラスト　2019年



Comment

魔術競技祭のときもそうでしたが、生徒同士のバトルってキャラクターの成長が感じられて良いですよね。２巻のときはまだ初々しかったシスティーナやルミアが、たくさんの経験を経てなんと立派になったことか…！

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 15
カバーイラスト　2019年

Comment

禁忌教典(アカシックレコード)とは一体なんなのか。このあたりから、どんどんと謎が紐解かれていきますよね。…余談ですが、このカバーのナムルスさん、カバーだけだと服を着ていない風に見えますがちゃんと服着てるんですよ !!

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 16
カバーイラスト　2020年





Comment

イヴは描いていて楽しいキャラです
ね。とにかく、過去に囚われずに幸
せになってほしいなあ…。ある意味
でスカッとした巻でもありました！

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 17
カバーイラスト　2020年



Comment

カバーでグレンを泣かせたのは初めてですね。何やら意味深なグレンとセリカで、不穏な気配を感じ取って頂けていたら嬉しいです。18巻は内容も内容なので、非常に沈んだ気持ちで作業をしていました。

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
カバーイラスト　2020年


ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
口絵　2018年


Comment
アルベルトの強キャラ感を出したかったイラストです。なんか強いキャラって高いところに立たせたくなっちゃうんですよね…。グレンVSアルベルト！　というのが伝われば嬉しいです。
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
口絵　2018年


ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
口絵　2018年



Comment

聖リリィ魔術女学院のコレットさんがいる貴重な口絵ですね。フランシーヌとコレットコンビも好きなのでまた描けて嬉しかったです！

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
口絵　2019年



ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
口絵　2019年



ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
口絵　2019年


Comment
エレンが、本当の意味でシスティーナに救われたシーンのイラストですね。持つ者と持たざる者のお話は、読んでいてとても印象的でした。
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
口絵　2019年



Comment

この口絵の、娘をけしかけるアリシアさんがお気に入りです。そんなこと言っちゃっていいの!? という感じで。アリシアさんのお茶目な部分とても可愛い。

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 15
口絵　2019年


ロクでなし魔術講師と禁忌教典 15
口絵　2019年



ロクでなし魔術講師と禁忌教典 15
口絵　2019年



Comment

メルガリウスの天空城を眺めながら思いを馳せたいつかのお爺様とシスティーナ、そして現在のシスティーナです。ある意味では“ここが始まり”感ありますよね…。

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 16
口絵　2020年



Comment

なかなかの肌色率！　湯気があまり仕事をしないので、お湯と髪に頑張ってもらいました。

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 16
口絵　2020年


ロクでなし魔術講師と禁忌教典 17
口絵　2020年



Comment

ダークサイドイグナイト。イグナイト卿、個人的にごりっごりの強面マッチョメェンを想像していたのですが、「小物臭ある感じで」と指定を頂き小物全開になりました。

ロクでなし魔術講師と禁忌教典 17
口絵　2020年


Comment
教えて貰うばかりでなく、先生の背
中も押してあげられるようになった
生徒達…ほんと良いクラスですよね。
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
口絵　2020年



ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
口絵　2020年



Akashic records of bastard magic instructor 13 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
挿絵　P19　2018年

02
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
挿絵　P63　2018年

03
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
挿絵　P187　2018年

04
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
挿絵　P217　2018年

05
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
挿絵　P277　2018年

06
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
挿絵　P285　2018年

07
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
挿絵　P319　2018年

08
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
挿絵　P327　2018年

09
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
挿絵　P337　2018年

10
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 13
挿絵　P147　2018年

01	02	03	10
04	05	06	
07	08	09	



















Akashic records of bastard magic instructor 14 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
挿絵　P35　2019年

02
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
挿絵　P51　2019年

03
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
挿絵　P149　2019年

04
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
挿絵　P167　2019年

05
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
挿絵　P319　2019年

06
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
挿絵　P359　2019年

01 02 03 05 04 | 01 02 03 04 05 06

Akashic records of bastard magic instructor 15
Illustration

01
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 15
挿絵　P43　2019年

02
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 15
挿絵　P101　2019年

03
ロクでなし魔術講師と禁忌教典15
挿絵　P257　2019年

04
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 15
挿絵　P305　2019年

05
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 15
挿絵　P213　2019年























Akashic records of bastard magic instructor 16 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 16
挿絵　P23　2020年

02
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 16
挿絵　P149　2020年

03
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 16
挿絵　P177　2020年

04
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 16
挿絵　P205　2020年

05
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 16
挿絵　P227　2020年

06
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 16
挿絵　P285　2020年

01 02 03 05 04　|　01 02 03 04 05 06

Akashic records of bastard magic instructor 17
Illustration

01
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 17
挿絵　P65　2020年

02
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 17
挿絵　P95　2020年

03
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 17
挿絵　P147　2020年

04
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 17
挿絵　P229　2020年

05
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 17
挿絵　P327　2020年













Akashic records of bastard magic instructor 18
Illustration

01
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
挿絵　P33　2020年

02
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
挿絵　P101　2020年

03
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
挿絵　P125　2020年

04
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
挿絵　P253　2020年

05
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
挿絵　P271　2020年

06
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
挿絵　P329　2020年

07
ロクでなし魔術講師と禁忌教典 18
挿絵　P165　2020年

01 02 03 04 06 05	07









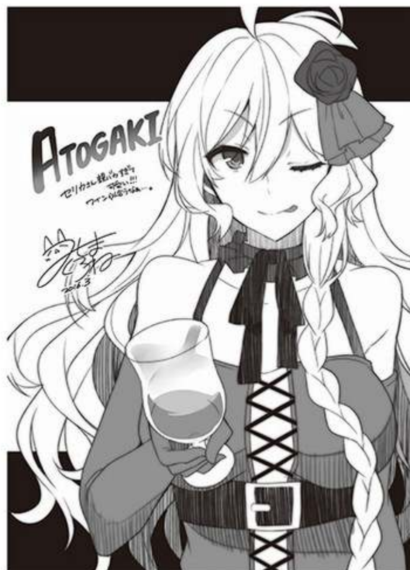




Column　Afterword



コミックス『ロクでなし魔術講師と禁忌教典 1』
応援イラスト　2015年



ロクでなし魔術講師と追想日誌（メモリーレコード）
あとがき　2016年



ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
あとがき　2017年



ロクでなし魔術講師と禁忌教典 14
あとがき　2019年



ロクでなし魔術講師と追想日誌 7
あとがき　2020年

Memory records of bastard magic instructor

Original work
1 to 8

Contents



Comment

生徒達のためにカリキュラムを組んでたけど、疲れて眠ってしまったグレンを見守るセリカ。二人の関係性を読み取って頂けたら嬉しいですね。

ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
カバーイラスト　2017年

ロクでなし魔術講師と追想日誌
カバーイラスト　2016年



Comment

『禁忌教典』の表紙は、日常というよりかはバトルっぽいイラストが多いので、『追想日誌』は日常感を全面に出しています。学校が終わったら、帰路で楽しく談笑しながら買い食いしていたり…普段はなかなか見られない姿を短編で見られるという意味でも、このコンセプトは合ってたのではないかなと思います。



Comment

かつてのグレンの同僚達。このイラストはグレン目線です。セラは1回口絵でカラーを描きましたが、それ以降はモノクロのみだったのでここで描けて嬉しかったですね。

ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
カバーイラスト　2019年

ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
カバーイラスト　2018年



Comment

グレンとルミアと、真ん中の謎の（？）金髪幼女。彼女の正体はぜひ『追想日誌』４巻を読んで頂きたいですね！　個人的にお気に入りの１枚です。



Comment

髪尻尾の無いグレンとジャティス、それに嘆息するイヴという軍時代の３人。グレンとジャティスは同僚だったときでも常にぶつかっていたのでしょうか…。そんな部下達に振り回されるイヴもこの年にして苦労人ですね…。

ロクでなし魔術講師と追想日誌 6
カバーイラスト　2020年

ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
カバーイラスト　2019年





Comment

グレンは何人の花嫁候補がいるんだろうなあ…。ここでは3人しか描いていませんが、まだほかにもいそうですよねぇ…。罪な男ですねぇ…。

ロクでなし魔術講師と追想日誌 8
カバーイラスト　2021年

ロクでなし魔術講師と追想日誌 7
カバーイラスト　2020年



Comment

荒んでいたルミアに、「魔術ってすげえだろ？」と問いかけているグレンです。前にどこかで、荒んでいた頃のルミアのお話も見てみたいなと話した気がするのですが、ここで見ることができて良かったです。改めて本編を読み返したくなりました。



Comment

深夜に趣味全開のシスティーナ。彼女の趣味はこう…クリエイターとして親近感が湧きますよね。仕事にする前は自分もこうなってたのかな…とか、思わず遠い目をしてしまいます。

ロクでなし魔術講師と追想日誌
口絵　2016年


Comment
謎の光が良い仕事をしてくれました。
ロクでなし魔術講師と追想日誌
口絵　2016年



Comment

荒んだセリカさん。寝ながらも飲んでるってよっぽどですよね!?　多分この後ろにも空のワインボトルがゴロゴロしているのでしょう。

ロクでなし魔術講師と追想日誌
口絵　2016年



Comment

フェジテに降り立ったサンタ衣装の三人娘。「ロクでなし」のキャラは普段の制服だけでなく、色んな衣装を着せている気がします。

ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
口絵　2018年



Comment
まほうようじょ三人娘。不思議な生き物の力を借りて、よのなかを脅かす悪と戦っちゃうぞ！　な雰囲気が伝わればいいなと思います。
ロクでなし魔術講師と追想日誌4
口絵　2019年



Comment

もしもイヴがOLになったら、という設定で描かせて頂いた物です。たぶん、エリートだけど部下に振り回されて残業続きだわロクにご飯もゆっくり食べられずに携帯食料で済ましてるわでOLになっても苦労人なイメージのイヴです。でも絶対男性社員にはモテているし女性社員からも羨望の眼差し。

ロクでなし魔術講師と追想日誌5
口絵　2019年



Comment

永久ともいえる時間の中で、ヒマを持て余し気味なナムルス。実際に永久の時を生きる事になったら、どうなるんでしょうね…。彼女は特に人に認知されることも少ないと思うので、なおさら1人でいるのは寂しそうだなと思います。

ロクでなし魔術講師と追想日誌6
口絵　2020年



Comment

もしもの子供達。指定を頂いたときはまさかのでした。何をどうやったらシスティーナの教育方針がねじ曲がってしまうんだ…！　ルミアの子はなんとなく小悪魔になりそうなのはわかる。そしてリィエルの子は、ぜひ母子のやりとりを見てみたい！

ロクでなし魔術講師と追想日誌 7
口絵　2020年



ロクでなし魔術講師と追想日誌 8
口絵　2021年



Memory records of bastard magic instructor 1 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と追想日誌
挿絵　P31　2016年

02
ロクでなし魔術講師と追想日誌
挿絵　P61　2016年
（初出：ドラゴンマガジン2014年9月号）

03
ロクでなし魔術講師と追想日誌
挿絵　P97　2016年
（初出：ドラゴンマガジン2015年1月号）

04
ロクでなし魔術講師と追想日誌
挿絵　P183　2016年

05
ロクでなし魔術講師と追想日誌
挿絵　P193　2016年
（初出：ドラゴンマガジン2015年5月号）

06
ロクでなし魔術講師と追想日誌
挿絵　P243　2016年

07
ロクでなし魔術講師と追想日誌
挿絵　P311　2016年

08
ロクでなし魔術講師と追想日誌
挿絵　P165　2016年

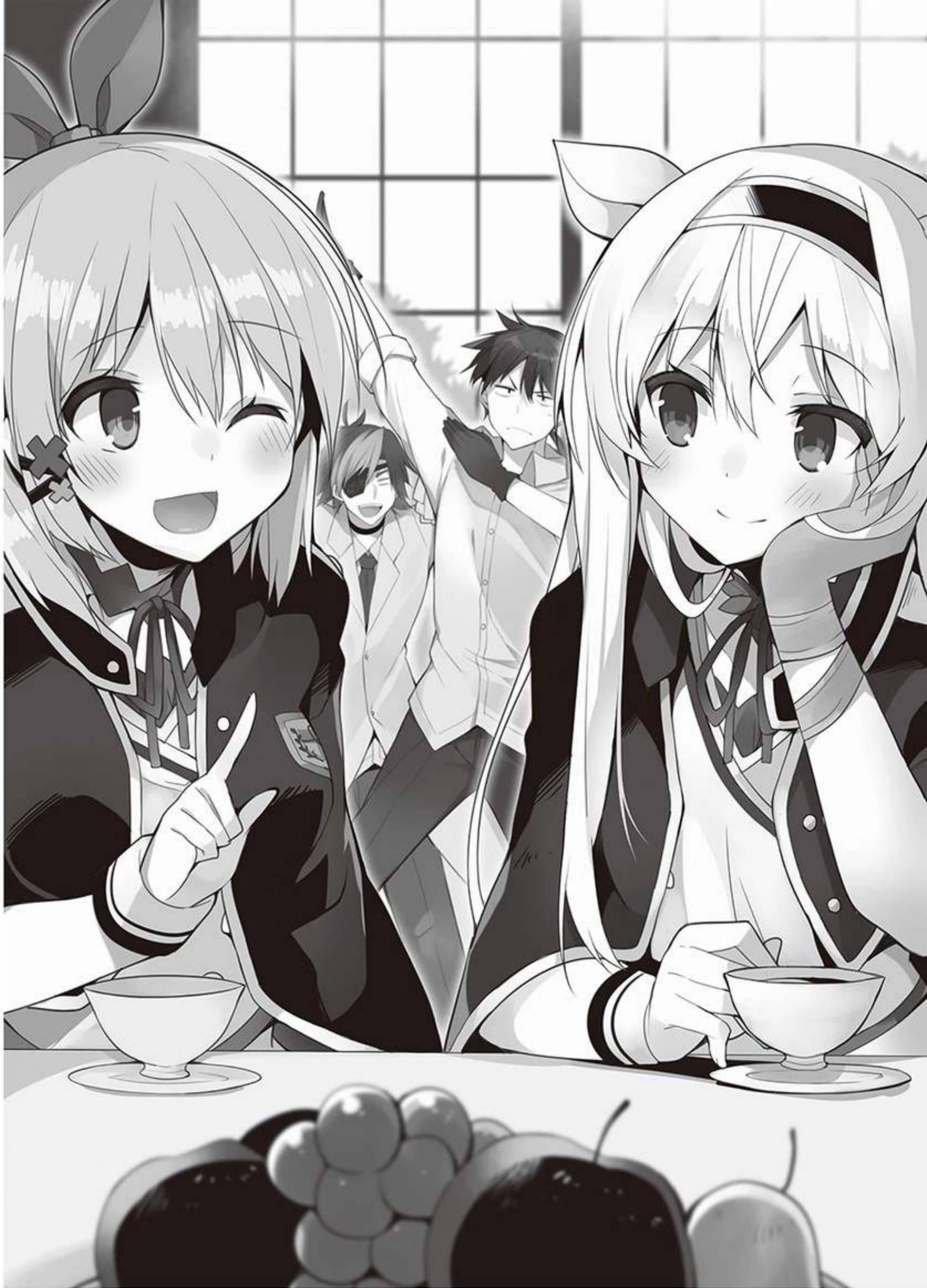
01 02 03 04 05 06 07	08











Memory records of bastard magic instructor 2 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
挿絵　P49　2017年
（初出：ドラゴンマガジン 2015年7月号）

02
ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
挿絵　P87　2017年
（初出：ドラゴンマガジン 2015年9月号）

03
ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
挿絵　P107　2017年
（初出：ドラゴンマガジン 2015年9月号）

04
ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
挿絵　P151　2017年
（初出：ドラゴンマガジン 2015年11月号）

05
ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
挿絵　P167　2017年
（初出：ドラゴンマガジン 2015年11月号）

06
ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
挿絵　P203　2017年
（初出：ドラゴンマガジン 2016年1月号）

07
ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
挿絵　P229　2017年
（初出：ドラゴンマガジン 2016年1月号）

08
ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
挿絵　P249　2017年

09
ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
挿絵　P297　2017年

10
ロクでなし魔術講師と追想日誌 2
挿絵　P27　2017年
（初出：ドラゴンマガジン 2015年7月号）

01	02	03	10
04	05	06	
07	08	09	





















Memory records of bastard magic instructor 3 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
挿絵　P57　2018年
(初出：ドラゴンマガジン2016年3月号)

02
ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
挿絵　P61　2018年
(初出：ドラゴンマガジン2016年3月号)

03
ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
挿絵　P83　2018年
(初出：ドラゴンマガジン2016年5月号)

04
ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
挿絵　P113　2018年
(初出：ドラゴンマガジン2016年5月号)

05
ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
挿絵　P171　2018年
(初出：ドラゴンマガジン2016年7月号)

06
ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
挿絵　P173　2018年
(初出：ドラゴンマガジン2016年7月号)

07
ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
挿絵　P217　2018年
(初出：ドラゴンマガジン2016年9月号)

08
ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
挿絵　P261　2018年

09
ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
挿絵　P309　2018年

10
ロクでなし魔術講師と追想日誌 3
挿絵　P179　2018年
(初出：ドラゴンマガジン2016年9月号)

01	02	03	10
04	05	06	
07	08	09	













Memory records of bastard magic instructor 4 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
挿絵　P27　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2016年11月号）

02
ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
挿絵　P69　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年1月号）

03
ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
挿絵　P103　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年1月号）

04
ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
挿絵　P127　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年3月号）

05
ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
挿絵　P153　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年3月号）

06
ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
挿絵　P191　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年5月号）

07
ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
挿絵　P225　2019年

08
ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
挿絵　P239　2019年

09
ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
挿絵　P323　2019年

10
ロクでなし魔術講師と追想日誌 4
挿絵　P15　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2016年11月号）

01 02 03 04 05 06 07 08 09	10













Memory records of bastard magic instructor 5 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
挿絵　P45　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年7月号）

02
ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
挿絵　P67　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年9月号）

03
ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
挿絵　P97　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年9月号）

04
ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
挿絵　P143　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年11月号）

05
ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
挿絵　P159　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年11月号）

06
ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
挿絵　P167　2019年

07
ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
挿絵　P197　2019年

08
ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
挿絵　P237　2019年

09
ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
挿絵　P263　2019年

10
ロクでなし魔術講師と追想日誌 5
挿絵　P31　2019年
（初出：ドラゴンマガジン 2017年7月号）

01	02	03	10
04	05	06	
07	08	09	





















Memory records of bastard magic instructor 6 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と追想日誌6
挿絵　P13　2020年
（初出：ドラゴンマガジン2018年3月号）

02
ロクでなし魔術講師と追想日誌6
挿絵　P19　2020年
（初出：ドラゴンマガジン2018年3月号）

03
ロクでなし魔術講師と追想日誌6
挿絵　P69　2020年
（初出：ドラゴンマガジン2018年7月号）

04
ロクでなし魔術講師と追想日誌6
挿絵　P97　2020年
（初出：ドラゴンマガジン2018年7月号）

05
ロクでなし魔術講師と追想日誌6
挿絵　P163　2020年
（初出：ドラゴンマガジン2018年9月号）

06
ロクでなし魔術講師と追想日誌6
挿絵　P203　2020年
（初出：ドラゴンマガジン2018年11月号）

07
ロクでなし魔術講師と追想日誌6
挿絵　P257　2020年

08
ロクでなし魔術講師と追想日誌6
挿絵　P319　2020年

01 02 03 04 05 06 07	08

















Memory records of bastard magic instructor 7 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と追想日誌 7
挿絵　P47　2020年
（初出：ドラゴンマガジン2019年1月号）

02
ロクでなし魔術講師と追想日誌 7
挿絵　P107　2020年
（初出：ドラゴンマガジン2019年3月号）

03
ロクでなし魔術講師と追想日誌 7
挿絵　P137　2020年
（初出：ドラゴンマガジン2019年5月号）

04
ロクでなし魔術講師と追想日誌 7
挿絵　P209　2020年

05
ロクでなし魔術講師と追想日誌 7
挿絵　P239　2020年

06
ロクでなし魔術講師と追想日誌 7
挿絵　P315　2020年

07
ロクでなし魔術講師と追想日誌 7
挿絵　P29　2020年
（初出：ドラゴンマガジン2019年1月号）

01 02 03 07
05
04
06








喧嘩上







Memory records of bastard magic instructor 8 Illustration

01
ロクでなし魔術講師と追想日誌 8
挿絵　P61　2021年

02
ロクでなし魔術講師と追想日誌 8
挿絵　P175　2021年
（初出：ドラゴンマガジン2020年3月号）

03
ロクでなし魔術講師と追想日誌 8
挿絵　P231　2021年

04
ロクでなし魔術講師と追想日誌 8
挿絵　P143　2021年

05
ロクでなし魔術講師と追想日誌 8
挿絵　P331　2021年

06
ロクでなし魔術講師と追想日誌 8
挿絵　P9　2021年
（初出：ドラゴンマガジン2020年7月号）

01 02 03 06

05

04











Illustrations for the Dragon magazine

Contents

Comment

物凄く懐かしい…！　もう５年も前にドラゴンマガジンさんの表紙で描かせて頂いたものなのですね…。これが「ロクでなし」の初めての表紙デビューでした。

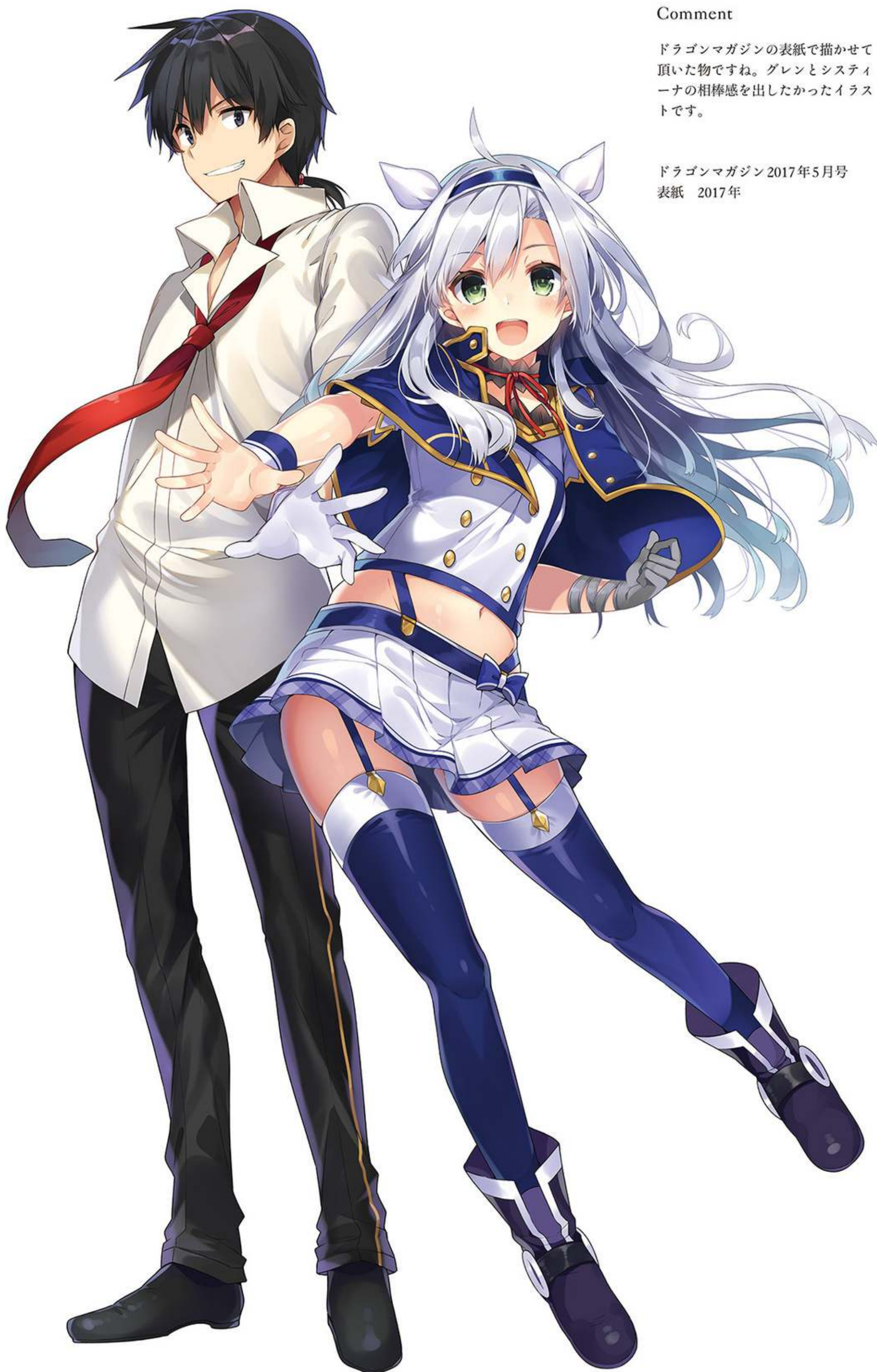
ドラゴンマガジン2016年1月号
表紙　2015年







ドラゴンマガジン2016年5月号
表紙　2016年



Comment

ドラゴンマガジンの表紙で描かせて頂いた物ですね。グレンとシスティーナの相棒感を出したかったイラストです。

ドラゴンマガジン2017年5月号
表紙　2017年

Comment

システィーナとルミアは本当仲良しですね…！

ドラゴンマガジン2017年11月号
表紙　2017年

ドラゴンマガジン2021年3月号
表紙　2021年





Comment

グレンのニヤリ顔を描くのが好きなので、よく描いていますね。（グレンが純粋に笑う顔があんまり想像できないのもあるのですが…）

ドラゴンマガジン2020年3月号
表紙　2020年





ドラゴンマガジン2014年9月号
特集　2014年



ドラゴンマガジン2014年9月号
特集　2014年



ドラゴンマガジン2015年1月号
特集　2014年



Comment

短編集のキャラ紹介部分に使って頂いているイラストですね。描いたのはだいぶ前なので、この頃のシスティはまだグレンに対しての信頼度が低い顔してますね…。懐かしいです。

ドラゴンマガジン2016年1月号
特集　2015年



ドラゴンマガジン2016年1月号
特集　2015年



Comment

師弟コンビです。グレンの性格は、
セリカありきな感じがしますよね。
素敵な関係だなと思います。

ドラゴンマガジン2016年3月号
特集　2016年

Comment

みんながスーツやドレスでびしっと
決めても、グレンはやっぱり着崩し
てしまうんですね…。

ドラゴンマガジン2016年5月号
特集　2016年


ドラゴンマガジン2016年5月号
特集　2016年

ドラゴンマガジン2017年5月号
特集　2017年

ドラゴンマガジン2017年5月号
特集　2017年





Comment

お花見中の三人娘です。こういう穏やかな日常イラストも描いていて楽しいです。

ドラゴンマガジン2018年9月号
特集　2018年



Comment

このイラストで一番力を込めて描いていたのが、テーブルの上にあるフレンチトーストだったりします。食べ物を綺麗に描けると「よっしゃあ！」となります。…多分ほとんどの方が注目しない部分だと思いますが…。

ドラゴンマガジン2018年9月号
特集　2018年



Comment

お菓子の国のアニマル娘達です。システィーナが猫、ルミアが兎、リィエルがリスのイメージです。

ドラゴンマガジン2017年11月号
特集　2017年



Comment

「ロクでなし」の世界観は洋風なので、和装は珍しいですよね。描いていてとても新鮮でした！

ドラゴンマガジン2018年3月号
ふろく　2018年



ドラゴンマガジン2020年3月号
定期購読記念イラスト　2020年



ドラゴンマガジン2015年9月号
定期購読記念イラスト　2015年

Extra

contents

Kurone Mishima Interview

もっとも苦労したデザインは「制服」

――『ロクでなし魔術講師と禁忌教典』（以下『ロクでなし』）の作品の第一印象は？

三嶋　小説の原稿を読むより先に、まずは担当編集さんから膨大な資料集が送られてきたんです。そこには世界観からキャラクターまで、ものすごくたくさんの設定がビッシリと書き込まれていて、その密度の濃さに驚いたのを今でも覚えています。設定を読むだけで、頭の中でどんどん物語のイメージが湧いてきて、これは凄い作品になるなと思いました。

――三嶋さんは同時期にスニーカー文庫の『この素晴らしい世界に祝福を！』（以下『このすば』）のイラストも担当されてましたが、2作品の描き分けは意識されましたか？

三嶋　どちらも異世界ファンタジーではありますが、雰囲気は異なるので、意識せずとも自然と違うものに仕上がっていたと思います。『このすば』はどんな状況でも笑わせてくれるシリアスブレイカーなのに対して、『ロクでなし』は根本的にはアツいバトルファンタジー。端的に言えば『このすば』では可愛さを、『ロクでなし』ではカッコよさを追求していたイメージですね。グレンにしても基本は三枚目ですが、なんだかんだカッコいいんですよね。あ、別に『このすば』のカズマがカッコ悪いというわけでは決してないんですけど（笑）。

――キャラクターデザイン時の思い出は？

三嶋　主要キャラのデザインはたくさんの資料のおかげで、わりとすんなり決まったのですが、制服のデザインが大変だった記憶があります。決定稿に到るまでかなりのパターンを作ったかと（※ vol.2 P155 参照）。当初こそ「中世風の街並みに馴染むデザイン」を試行錯誤していたのですが、結果的には馴染むどころか目立ちまくる制服デザインになりましたよね（笑）。

――個人的に好きなキャラはいますか？

三嶋　みんな好きなんですけど、友達になりたいのはセリカです。チート級に綺麗すぎるお姉さんって最高ですよね。グレンとの親子のような、友達のような微妙な関係性も含めてすごく好きです。あと最近とくに気になるのはイヴですね。氷のようにクールな人なのかと思っていたら、物語を追う毎にだんだんと脆い面が出てきて。そういうキャラクターは個人的に大好きですし、私としてもすごく描きやすくなりました。もしイヴがヒロインレースに勝ってグレンのお嫁さんになったらどうなっちゃうんだろうとか、妄想も捗ります（笑）。

「背景」と「男性キャラ」が大きく成長

――画集のイラストを振り返ってみていかがでしょうか？

三嶋　まずはたくさん描かせていただいたなあと思いますね。あとやはり、絵柄の変化は感じます。私自身、どちらかというと積極的に新しい手法を取り入れるほうで、絵柄の試行錯誤を繰り返しています。とくに7年前と比べると構図や塗りが大きく変わったなと思います。例えば1巻の口絵（※ vol.1 P030 参照）などは、今だったら手前と奥でカットを割っていると思います。『ロクでなし』に限らず読者さんに「これってどこかで見たな」と思って欲しくないので、常に新鮮に見えるよう気を付けてはいますね。『ロクでなし』のおかげで、この7年間でカット割りの技術や構図の引き出しが増えたので、これは本当に作品に感謝ですね。塗りに関しても、単純に月日が経つごとに使うペンを変えているので、やはり少しずつ変化しているんだなと感じました。

――今回の画集の収録にあたり、個人的なお気に入りを挙げるとしたら？

三嶋　「vol.1」であれば、TVアニメ1巻のジャケット（※ vol.1 P128 参照）です。構図は指定があったのですが、表情は自由に描かせてもらいました。自分なりにシスティーナの表情をうまく表現できたと思っていて、これはお気に入りです。「vol.2」から挙げるなら、『ロクでなし魔術講師と追想日誌』シリーズのカバーイラスト（※ vol.2 P060-067 参照）はどれも好きですね。『禁忌教典』のカバーは基本的にキャラが決めポーズをしていて、目線も読者のほうを向いているんです。でも『追想日誌』では日常のワンシーンを切り取っていて、目線もできる限り外すことを意識して描いてます。当初は本編と区別しやすいようにと思って提案したスタイルなのですが、いざやってみたら新鮮で、すごく楽しい。ここまでしっかりと背景を描き込んだのは初めてですし、とても勉強になりましたね。

——『ロクでなし』はカバーや口絵のイラストに男性キャラが多数登場するのも特徴ですよね。

三嶋　そうですね。これまで男性向けコンテンツでは可愛い女の子ばかりを描いてきたので、最初は男性キャラを描くのはちょっと苦手だったのですが、だんだんと慣れて、今ではすごく楽しいです。可愛い女の子の隣にカッコいい男性が並ぶと、やっぱり映えますからね。振り返ると、背景と男性キャラに関しては『ロクでなし』を担当させてもらったことで大きく成長できたような気がします。

一夫多妻制じゃダメなんですか？

——これまででもっとも好きなエピソードは？

三嶋　13巻で描かれたグレンとアルベルトの対決シーンです。ここは口絵（※vol2 P022参照）でも描かせていただいたんですけど、個人的にグレンのニヤリ顔を描くのが好きなので、この時はストーリー展開も相まってすごくテンションが上がりました。グレンとアルベルトに関しては、かつての同僚ならではの、密かにお互いを信頼している感じがいいですよね。

——そんな『ロクでなし』も、いよいよ物語の佳境を迎えますが、心境はいかがですか？

三嶋　最初にタイトルを読んだ時から「禁忌教典（アカシックレコード）って何だろう？」って思っていたのですが、それがようやく明らかになりそうで、本当にクライマックスに向かっているんだとずっとドキドキしています。最後までしっかりと見届けたいという気持ちと、終わってしまうのが寂しいという気持ちがあって、そこは読者の皆さんとまったく同じ感覚だと思います。

——ヒロインたちとグレンの関係の行方も気になりますよね。

三嶋　確かにそうですよね。でも実際にはグレンが特定の誰かと結ばれるっていう展開は考えにくいかもしれない。読者の皆さんにもそれぞれの推しヒロインがいるでしょうから。羊先生の采配次第ではありますが、なんだかんだ言って最後は読者の想像に任せる形になるのかなと、今はそう予想しています。できればギャルゲーみたく、それぞれのキャラごとに結末が描かれると最高なんですけどね（笑）。

——小説形式ではなかなか難しそうですね。

三嶋　ですよね。だから「一夫多妻制じゃダメなんですか？」と羊先生に言いたいくらいなんです（笑）。

何でも描いてみたいです

——２０２１年12月には画業10周年を迎えますが、この10年を振り返っての率直なお気持ちは？

三嶋　10周年ですが、体感としてはまだ5年くらいしか経っていない気がします。それだけ、『ロクでなし』を始めとする多くの作品に携わったこの10年が激動の日々だったということでしょうか。大人気シリーズの作品のイラストを担当させていただいて、それはとても嬉しいことではあるんですが、それと同時に時間が経つのが早すぎて「このままだとあっという間に寿命を迎えるんじゃないか？」と怖くもあります（笑）。

——次の10年で、三嶋さんが描いてみたいジャンルなどはありますか？

三嶋　ファンタジーでも現代劇でもＳＦでも恋愛モノでも、何でもやってみたいという気持ちはどんどん高まっています。これまでに描いたことのない世界というのは最初こそ大変ですけど、描き続けていくなかでだんだんと形になっていく過程は本当に嬉しいですし、やりがいを感じるんです。それはまさに『ロクでなし』のイラストを担当させていただいたからこそ実感できたこと。まだまだ練習中ですけど、メカを描くのも嫌いじゃないので、そういった方向も挑戦していきたいです。いろいろなことにチャレンジしたいという、その気持ちが私の原動力にもなっているので、ぜひこれからも応援していただけたら励みになります。



みしま・くろね

白髪娘を愛するイラストレーター＆漫画家。『ロクでなし魔術講師と禁忌教典』（ファンタジア文庫刊）、『この素晴らしい世界に祝福を！』（角川スニーカー文庫刊）の挿絵や、VTuber月深ツキのデザインなどを手がけている。

『メルガリウスの文化祭』後編

著：羊太郎

～前編のあらすじ～

アルザーノ帝国魔術学院文化祭、開催。
グレン達二年次生二組は『メルガリウスの魔法使い』の演劇をすることに。
皆で協力した甲斐あって、午前の部は大成功。
だが、ひょんなことで二組の生徒の半分が、酔い潰れて前後不覚に。
迫る、午後の公演時間。
大胆な配役変更で、なんとか公演にこぎ着けるグレン達。
果たしてグレン達は、文化祭を成功させることができるのだろうか——？

——。

ざわ、ざわ、ざわ……
今、二組が公演を行う薄暗い会場内には、観客達で溢れかえっていた。評判の舞台劇を一目見ようとする生徒達で溢れかえり、立ち見も現れる始末だ。
二組の惨状は、噂となって学院中に蔓延しており、ひょっとしたら午後の公演はなくなるかもとの噂もあっただけに、多くの生徒達が公演決定の知らせに喜んだ。
だが、本当に公演できるのか？ 大丈夫なのか？
誰しもがそんな不安を拭うことはできない。
やがて。
多くの不安と期待を背負って、会場内に高らかに響き渡る鐘の音と共に、公演開始時間がやってくるのであった——
『これより始まるは、今は遠き昔、遥か昔の物語……』
始まるは、急遽、代理ナレーターを務めるロザリーのナレーション。
そして、しめやかに上がっていく舞台の幕。
照明が絞られ、正義の魔法使い役が、舞台上に颯爽とその姿を現す——
「〝魔王め！ よくも僕の故郷を滅ぼし……お姫様を……ッ！ 許さないぞ！〟」
——正義の魔法使い役の衣装に身を包んだグレンが。
「え？ 何アレ……」
「グレン先生……だよな……？」
予想外の展開に、ざわつく観客達。
「〝本当に、どうしてこうなったーーッ!? ええい、誓ってやるわ！ 僕は皆のために魔王をぶっ潰してやらぁああああああーーッ!?〟」
最早、ヤケクソ気味に、大いなる冒険へ旅立つ魔法使いの役を演じるグレン。
「〝お師匠様！ 私もお供します！〟 ひそひそ（ちょっと、先生、素が出てますよ!? もっと真面目に演技してください！）」
正義の魔法使いの弟子役を演じるシスティーナが、舞台上で演技しつつ、グレンへひそひそ声の抗議を送る。
「〝つ、ついてきてくれるのかい!? 魔王を倒す旅は、きっと辛く苦しい旅となる……〟 ひそひそ（つーか、なんでよりにもよって俺が主役なんだよ!?）」
「〝もちろんです！ お師匠様のためなら、私は火の中、水の中！〟 ひそひそ（だって『メルガリウスの魔法使い』に詳しくて、今回の脚本を熟知してて、他に手の空いている人、先生しかいないじゃないですか!?）」
「〝弟子よ、そこまで僕に期待してくれるのは嬉しい。でも、僕は不安なんだ、そんな大役が僕に務まるのだろうか？〟 ひそひそ（つーか、無理に決まってんだろ！）」
「〝そんなことありません！ お師匠様ならきっと成し遂げられましょう！〟 ひそひそ（無理でもやるしかないんです！ 腹を括ってくださいっ！）」
この大一番に至り、なぜこのような大胆な配役変更が行われたのかまったくわからず、ポカンとしている観客達を尻目に。
やがて、正義の魔法使いとその弟子は、魔王を倒す誓いを立てるのであった。
「〝くそ、わかったよ、そこまで言うならやってやらぁ……ッ！〟」
「〝わ、わかればいいんですよ、お師匠様……ッ！ わかれば……ッ！〟」
がしっ！ 二人が舞台上で、誓いの握手をかわす。
グレンが大人の握力を持って、全力でシスティーナの手を握りしめる。
システィーナも負けじと付呪魔術で握力を即興強化し、グレンの手を握りしめ返す。
ぎりぎりぎり……結果、拮抗し、グレンとシスティーナは至近距離で、もの凄い形相の睨み合いとなるのであった。
それを見た観客達は——
「まさか、ここに来て主役の配役が変わるとは思わなかったけど……」
「ああ、凄い迫力だ……ッ！ 二人とも、何が何でも魔王を倒してやるという、殺意にも似た決意が滲み出ている……ッ！」
「ああ、恐いくらいにな……ッ！」
「午後の公演……これは凄いことになりそうだぞ……ッ!?」
——などと、息を呑むのであった。
「だ、大丈夫かなぁ……？」
「ん……」
舞台袖から様子を覗くルミアは苦笑い、リィエルは目をぱちくりするのであった。
そんな不安極まりない滑り出しで始まった、午後の公演。
正義の魔法使いは、その弟子を伴って魔王退治へと旅立つのであった。
意外にも、一旦、劇が始まってしまえば、グレンは持ち前のアドリブ力を発揮し、台詞の端々に危ういものを滲ませつつも、堂に入った演技を行っていく。
システィーナも、グレンと息ぴったりの演技でフォローしていく。
午前の公演とはちょっと雰囲気が異なる、〝一風変わった凸凹コンビ〟といった感じの正義の魔法使いとその弟子に、観客達は徐々に引き込まれ、感情移入していく。
そして、ロザリーのナレーションに従い、舞台上でグレンとシスティーナは、魔王を

倒すために果てしない旅を続けていく——

その道中は、様々な試練や困難が二人の前に立ちはだかり、観客を飽きさせない。

そして、これもそんな道中イベントの一つだ。

「〝魔法使い様……ッ！　けほっ……どうか、私をお救いください……ッ！〟」

グレンとシスティーナの前で、聖女衣装のセシリアが手を組んで跪き、懇願している。

「〝魔王の呪いによって、死の病を患った私の余命は、あと僅か……ごほっ、ごほっ！　どうか、この呪いを解いてくださいまし！〟」

これは原作『メルガリウスの魔法使い』、序盤の山場だ。

正義の魔法使いを、空に浮かぶ魔王の城へと導く《星屑の道》。

それを開く力を持つのが、この聖女だ。

だが、彼女は魔王に呪われて、死病を患っており、最早、余命幾ばくもない。

それでも、己が宿命を果たそうとする聖女の姿は、セシリアの迫真の演技もあって、観客達の涙を誘う。

魔王と戦うには、彼女の力が必要不可欠。ゆえに、そこを正義の魔法使いが助けるという、定番のストーリーラインである。

「〝お師匠様。どうしましょうか？　彼女の呪いの病はもう……〟」

「〝いや、まだ手はあるよ〟」

システィーナとグレンが、台本通り演技をする。

「〝北の死の森の奥深くに、伝説の薬草ルナミスがあると聞いたよ。それさえあれば、彼女の呪いは解ける〟」

「〝で、ですが、お師匠様！　死の森に行って帰って来た人はいません！〟」

「〝危険は承知だ！　だけど、僕は行かねばならない。魔王を倒すため……何より、彼女を救うために……ッ！〟」

すると、セシリア演じる聖女が感極まったように涙を流して、グレンの手を取った。

「〝ありがとうございます、魔法使い様！　もし、この呪いが解かれた暁には、私のこの命、魔法使い様のために捧げましょう！〟」

おおお、と。観客から感嘆の声が上がる。

正義の魔法使いの決意と、誰も見捨てない優しさ。そして、聖女の覚悟。

その悲しい生い立ちのせいで、今まで心を閉ざしていた聖女が、初めて誰かに心を開くそのシーンは、『メルガリウスの魔法使い』で盛り上がるポイントの一つだ。

それに——

「〝魔法使い様！　私は今、悟りました！　この呪われた私がなぜ、この世界に生をうけたか……それは貴方様のためだったのだと！〟」

さすがは、昔、演劇クラブに所属していたというセシリアだ。

振り付けも、感情の乗った台詞回しも一流、セシリアの身には、完璧に聖女が降りてきており、圧倒的な演技力と華で、観客達の目を吸い寄せる。

（ナイスだ、セシリア先生……ッ！　頼んで正解だった……ッ！）

演技を続けながら、この一幕の成功を確信するグレン。

グレンだけではない。

この時、裏方の誰もが、序盤の山場の圧倒的盛り上がりを確信していた。

急な配役変更による不安が、セシリアの演技で全て吹き飛んだのだ。

だが。

皆が、安堵した……その時だった。

「〝それでは、私は、空に輝くシリスの星に祈りましょう、貴方様のご無事をぉごぇえええええええええええええええええええええーーッ！〟」

どばっ！

唐突に、セシリアが盛大に喀血していた。

「……え？」

「は？」

いきなり眼前で展開される惨劇に、硬直するグレンにシスティーナ。固まる観客。

「あ、あら？　げほごほごほーーッ！　い、いつもの発作が……ぐふっ!?　ぐっぶぅうううううううーーッ!?」

ばしゃっ！　びちゃっ！　びしゃーっ！

必死に発作を堪えようとするが、セシリアの喀血はまったく止まらず——

やがて。

「……きゅう」

ばたーん！　と。

舞台上で、セシリアは自らが作った血の池の真ん中に倒れ伏す。

その凄惨極まりない有り様は、完全にただの惨殺死体である。

（そ、そういえば、セシリア先生って、そーゆー人だったなぁ!?　くっそ、なんでそれを失念していた、俺のバカバカバカバカッ！）

そう。セシリアは極度の虚弱体質で、ほんの少しでも負担がかかるとすぐに、血を吐いて貧血で倒れる性質がある。

最早、頭を抱えるしかないグレンであった。

「「「「…………」」」」

そうしている間にも、凍った空気が場を支配していて。

システィーナも、裏方達も、こんなトラブルどうしたらよいか、まったく分からず、ただただ棒立ちするしかなくて。

誰かなんとかしろよ、なんとかしなくちゃ……

そんな緊張感が張り詰め始めた、その時だった。

「〝……ま、間に合わなかった……ッ！〟」

グレンが、アドリブでそう叫んだ。

「えっ!?　先生……ッ!?」

ぎょっとするシスティーナを尻目に、グレンが迫真の演技で続ける。

「〝ま、魔王の呪いの病がここまで進行していたなんて……ッ!?　くっ！　罪なき聖女を死に至らしめた卑劣な魔王めッ！　僕は絶対にお前を許さないッ！〟」

血塗れでぐったりしたセシリアを抱きかかえながら、魔王に対する義憤を、ヤケクソ気味に燃やしてみせるグレン。

そんなグレンの演技に、観客達が驚愕に沸いた。

「ま、まさか……Ｉｆルートだとぉ!?」

「だから、午前と配役を変えたのか!?　くそっ！　やってくれるぜ、二組っ！」

「魔王へ至る道を切り開く聖女が、まさかの序盤脱落……ッ！　一体、これからどん

な展開になるんだ……ッ!?」
「くぅううう～～ッ!?　二回目だけど見に来て良かったぁ～～ッ！」
「しかし、あの聖女の最期……凄い演技だったな……ッ！」
「ああ、本当に吐血して死んだかと思ったぜ！」
「こりゃ、これからの展開も楽しみだな……ッ！」
「え、えぇー……？」
　あさっての方向に勘違いする観客達に、システィーナは頬を引きつらせるしかなく。
　舞台裏で動揺が広がる中、ロザリーが咄嗟にアドリブのナレーションを入れる。
『ま、魔王の呪いによって、道を切り開くこともできず、非業の死を遂げてしまった聖女様！　正義の魔法使い達の戦いはこれから一体、どうなってしまうのでしょうか!?　十分の休憩を挟んだ後の第二幕に、乞うご期待ッ！』
　そして、裏方の生徒達が慌てて、舞台の幕を下ろすのであった――

「ちょっと、先生!?　勝手にあんなことして、どういうつもりなんですか!?」
「仕方ねーだろ!?　あの場はああするしかなかっただろうが!?」
　第二幕への期待が高まる観客席とは裏腹に、楽屋裏は阿鼻叫喚の大紛糾であった。
　この大幅なプロット変更に、二組の生徒達の誰もが頭を抱えている。
　ちなみに、当のセシリアは……
「むきゅ～ん、ご、ごめんなさいです……」
「あ、あはは……気にしないでください……私達が無理をさせてしまいましたから……」
　ルミアに介抱されてぐったりしていた。
　そんなセシリアを尻目に、グレンは天井に向かって吠える。
「ああもうっ！　なんでこんなトラブルばっかりなんだよぉ!?」
「じ、実際、どうします!?　さっきの一幕で聖女が道を開かないと、プロット的に最終決戦に挑めないんですけど！　このままじゃ話、続けられません！」
　システィーナもあたふたと言う。
「……ん。わたしにはよくわからないけど……もう駄目なの？」
〝木〟の被り物をしているリィエルも少し哀しそうだ。
「うぐぐぐ……」
　グレンがどうしたものかと頭を捻っていると。
　そこへ救世主が声を上げた。
「待ってください！　まだ大丈夫です！」
　意外なことに、その救世主は、代理ナレーターを務めていたロザリーであった。
「多少、強引にはなりますが、この脚本なら、まだまだ軌道修正できます！」
　ロザリーが自信に満ちた表情で、そう断言する。
「これからの展開は、私が脚本をアドリブでアレンジしつつナレーションしますから、皆さん、それに合わせて演技してください！　大丈夫！　細部が変わるだけで、本来の演技内容からそう外れないようにはします！　そうなるよう辻褄を合わせますから！」
「ロザリーさん!?　そ、そんなことができるんですか!?」
「もちのロン！　フフン！　実はこういうの、私、大の得意分野ですから！　だてにアルザーノ帝国魔術学院を（実技以外は）首席で卒業してません！」
　ドヤ顔で胸を張るロザリー。
（……本当はド三流のヘッポコのくせに、世間に向けて超一流魔導探偵を装うストーリー捏造だけは、普段から上手いからな……）
　とは、さすがにここでは言えないグレンを他所に。
「ほ、本当ですか……良かった……ッ！　それなら続けられます……ッ！」
　ロザリーの手を取り、涙を浮かべて喜ぶシスティーナである。
「うおお、ロザリーさんがいてくれて本当に良かったぜ……ッ！」
「さすが、フェジテで音に聞く名探偵……ッ！」
　生徒達も、降臨したこのまやかしの救世主にすっかり心酔していく。
「溺れる者は藁をも掴む……偉大なる先人の言葉は実に的確だな」
　グレンは、そんな一同を呆れながら眺めるしかない。
「……で？　どうするのよ？　監督兼主役さん？」
　すると、どこかそわそわとした様子のイヴが、グレンへまくし立ててくる。
「まぁ、常識的に考えれば、ここで中止が妥当だとは思うけど。まぁ、生徒達が、まだ諦めていないわけだし。まぁ、私は止めた方がいいと思うけど、納得いくまで続けさせるのもありじゃないかしら？　私は止めるべきだと思うけど！　あくまで私個人は！」
（こいつ、滅茶苦茶、続けたそうだな……どんだけ青春イベントに飢えてんだ）
　だが、そんな面倒臭いイヴに突っ込んでいる暇はない。
「ええい、わかってらぁ！　こうなりゃ、観客に愛想尽かされるまでやってやらぁ！」
「はぁー……まだやる気？　仕方ないわね……失敗するのが見えてるから私は嫌だけど、もう少しだけ付き合ってあげる。私は嫌だけど！」
（途端、嬉しそうだな、コイツ……）
　わかりやす過ぎるイヴに、もはや何も言えないグレンであった。
　それはともかく。
「よしっ！　とにかく、お前らっ！　これからは臨機応変のアドリブ合戦だッ！　気合い入れろよッ！」
「「「「おおおおおおおおーーッ！」」」」
　最早、毒喰わば、皿まで。
　残された生徒達は、ヤケクソ気味に気合いを入れるのであった。

　こうして、様々な不安を渦巻かせながら、演劇は再開する。
　一体、第二幕からどうなることやら……
　グレン達以下、誰もが不安に思っていた。
　だが、意外にも、それは杞憂に終わる。

『奇しくも聖女の力を得ることができなかった魔法使いは、とある決断を下すことになりました。そう、それは想像以上に辛く苦しい旅路の始まりだったのです――』

それは、ロザリーの捏造という名のアドリブが、予想外の効果を発揮したからである。

多少のストーリーラインの無理臭さは、ロザリーの感動的ナレーションが、見事なまでに脱臭することに成功。ごちゃごちゃとわかりにくい美辞麗句で、スッカスカな中身を華麗に飾り立て、なんとか誤魔化しきったのである。

基本的に、展開はそれほど変わってないのだが、演出によって、今までとは、まったく異なった展開に見えるようになり、観客達はそれまで以上に引き込まれていく。

(さ、さすがは、取り繕った外面で、世間とマスコミを完璧に騙し続けている、超一流の詐欺師……つーか、こいつはどんだけ面の皮が厚いんだ……?)

グレンはどん引きだが、この状況としてはありがたい。

だが――劇の進行は、やはり苦難の連続であった。

『こうして、正義の魔法使いは、人々の切なる願いを受け入れ、鉄壁の守りの魔王軍、哀れなる死者の魂、恐るべき髑髏の軍勢に、真正面から立ち向かうのでありました！　さぁ、難攻不落のココさえ越えれば、魔王の住む魔都はもうすぐそこだ――』

「ちょっと待てぇええええええええーーッ!?」

舞台で、殺陣シーンを演じているグレンが吠える。

「なんなんだ、こいつら!?　本物のボーン・ゴーレムじゃねーかッ!?」

『ええ、そうですね、シュウザー教授に頼んで、本物を出してもらいましたから！』

「しかも、持っている武器、本物の剣で、戦闘設定が俺を殺す気満々じゃねーか!?　うひゃあああああああ!?　今、刃が擦ったぁ!?」

『ここは、さすがにちょっと、強引過ぎる展開ですからねー、派手な演出で誤魔化すことにしました！』

「うおおおおおおおーーッ！　ふざけんな、死んでたまるかぁああああーーッ！」

生存本能が訴えかけるままに、グレンは四方八方から、剣を振りかざして特攻してくるボーン・ゴーレムを、拳でなぎ倒していく。

「せ、先生、危ない！　《唸れ暴風の戦槌》ーーッ！」

びゅごう！　ごしゃっ！

システィーナの放った風の戦槌が、ゴーレム達を粉々に破壊する。

そんな、グレンとシスティーナの、実戦さながら（というより実戦そのもの）の派手な立ち回りに……

「す、すげえ……ッ！」

「ああ、午前の公演とは、殺陣の迫力が違う……ッ！」

「敵もリアルだし、なんか、本当に命のやりとりをしているみたいだ！」

「こんなＩｆルートを、用意していてくれたなんて……ッ！」

「本当に、見に来てよかった……ッ！」

まさかそれが本物の実戦だとは露ほども思わず、観客達は大歓声を上げて大喜びだ。

「くそぉおおおーーッ！　なんで演劇で命かけにゃならんのだぁ!?」

「き、気持ちはわかりますけど、先生！　演技！　演技！」

「そ、そうだった！　〝お、愚かな魔王め！　温いぞ！　こ、この程度の軍勢で、僕達の不退転の歩みを止められると思うな！〟」

グレンが震え声で、そう台詞を言うと。

「「「おおおおおおおおおおおおおおおおーーっ！」」」

大盛り上がりする観客席。

「む!?　温いだと!?」

すると、余計なやつ……裏方のオーウェルまで盛り上がる。

「さっき、グレン先生は、ここからは臨機応変のアドリブでやると言ったな!?　つまりその台詞は！　敵役の戦闘設定が弱すぎて盛り上がりにかけるから、なんとかしろと、そういう演劇に全てをかける先生の熱い魂の叫びだと、私は察したッ！

ようしっ！　ならばこの試作品！　『ダブルヘッド・スーパードラゴンキマイラくん４号』も投入しよう！　この合成魔獣は凄いぞ！　格好いいぞ！　その気になれば、百人くらい一瞬で挽肉にして喰い殺せるほどの戦闘能力があって――」

「やめろぉおおおおおーーッ！　そのアホ、誰か止めろぉおおおおおおーーッ!?」

「あああああああんっ！　もぉおおおおおおおおおーーッ！」

熱狂する観客達の大歓声によって、グレンとシスティーナの叫びはかき消されていく。

――――。

「〝で、出たな、魔煌刃将アール＝カーンッ！〟」

物語は進行し、魔将星と対峙するシーン。グレンがローブを翻して、颯爽と台詞を吐く。

だが……

「…………」

対する、黒衣をまとって双魔刀を構える魔将星は――無言。

それも、当然。今、この魔将星を演じているのは、人手不足で急遽、〝木〟役から大抜擢された（せざるを得なかった）リィエルだったからだ。

だが、リィエルはこんな状況でありながら、いつものように無気力・無表情、無感動のジト目で、ぼ～っとしている。

「〝え、ええと……ッ！　何か言ったらどうだ、アール＝カーン！〟」

「……？」

グレンが続く台詞を促しても、リィエルは不思議そうに、微かに小首を傾げるだけだ。

予定ならば、ここで正義の魔法使いと、反逆の魔将星の、世界の頂点に立つべき者の資質と是非について、熱い問答がかわされる山場のシーンの一つである。

だが、リィエルに、そんな高度で長い台詞が覚えられるわけもない。

「〝ぼ、僕と語ることは何もないというの

か!?　後は、互いに刃を交えるのみだというのか!?　良いだろう!　良いよな!?』

先ほどから、グレンがアドリブで一人台詞を回し、なんとか場を持たせようとしているが……それも最早、限界に近かった。

「ひそひそ（なぁ、白猫!?　も、もう、殺陣シーンに入っていいか!?　いい加減、無理!）」

「ひそひそ（だ、駄目ですよ先生!?　後、五分は延ばさないと!?　次のシーンの舞台準備が間に合いませんよ!?）」

ちらりとシスティーナが目を向ける舞台奥では二重幕の向こう側で、もの凄い勢いで準備をしている気配があった。微かな悲鳴や叫び声まで聞こえてくる。

「ひそひそっ（だが、どうすりゃいいんだよぉ!?）」

「ひそひそっ（そっ、それは……ええと……ッ!）」

観客にとっての緊迫した沈黙が、ただの退屈に間延びした隙間時間と化しかける……まさに、そんなギリギリのその時。

グレンが、苦肉の策で咄嗟に決断したことは――

「ぽそっ（リィエル、この場合、世界を支配する者とは、苺タルトだと考えろ!）」

「!」

グレンがそう呟いた、その瞬間。

リィエルの眉が、ぴくりと動き、その口が動き始める。

「ふ……笑止。世界を支配する者とは、魔王でも、あなたでもない。それは、この世界に唯一無二の至高の存在。こうして議論することもおこがましいこと」

突然、あの口下手なリィエルが、饒舌に台詞回しを始めた。

「どうやら、あなたは、ここまで旅を続けて来ながら何もわかってない。わたしがこの世界で唯一認めるそれが、どれだけ素晴しい至高の存在か教えてあげる。

まず、わたしとその真に世界を支配するべき存在との出会いは、今から半年前のこと……そう、新たな出会いが交錯したあの運命の日。戦いに続く戦いで、空虚に乾ききっていたわたしの心を、砂漠に落ちた一滴の水のごとく癒してくれた。その時、わたしは悟った……わたしは、それに仕えるために、この世界より生まれ落ちたのだと」

「えーと、あの、アール＝カーンさん?　お前の――」

「黙って、魔法使い。まだ説明が１％も終わってない」

グレンが台詞を切ろうとするも、それを突っぱねるリィエル。

「わたしは、それに出会って以来、変わった。わたしが、いままでいかに狭い世界と価値観で生きてきたかを知った。ゆえにわたしが、それを頑なに信仰し、この剣を捧ぐことになったのは運命。そもそも――」

観客達は、何のことだかサッパリわからないが、アール＝カーンにとって、そのかつて出会った真なる世界の支配者とやらが、いかに素晴らしい存在かということだけはわかったようである。不思議そうな表情をしながらも、しんと聞き入っている。

リィエルもリィエルで、苺タルトの素晴らしさを語り尽くすまで、話を止める気配がまったくなさそうであった。

今の所、致命的な破綻はしてないが……

（やばいな、これ……）

グレンとシスティーナは、戦々恐々とするしかない。

（今度は、時間オーバーしそうだな、どうしよう……?）

（う、ううーん……）

舞台上の二人も、裏方も、再びアドリブで展開修正をしなければならなくなってしまったことに、ひたすら頭を悩ませるしかないのであった。

……そんなこんなで。

グレン達の波瀾万丈の演劇は、なんとか続いていく。

今にも、破綻寸前のストーリーラインを、針に糸を通すような細い道を繋いで、辛うじて繋いでいく。

ロザリーの捏造ナレーションで七転八倒する展開。全力を出してしまったオーウェルの過剰演出。グレン達が土壇場で発揮したヤケクソじみたアドリブ力。

それらが合わさって、奇跡的な寸劇が展開されていく。

そして――物語は進行して、進行して――

――――。

「〝つ、ついに……〟」

「〝魔王との最終決戦ですね……お師匠様……〟」

舞台上で、正義の魔法使いに扮するグレンと、その弟子に扮するシスティーナが、疲れきった顔で呻いていた。

「た、頼むぜ、グレン先生……」

「システィーナも……」

舞台袖で様子を窺う二組の生徒達も、よくもまぁ、ここまで突貫工事的路線変更とアドリブで辿り着けたなと、はらはらしながら見守っている。

そんな舞台裏事情とは裏腹に、今の観客達のボルテージはＭＡＸだ。

これまであまりにも斬新な展開を見せられ続けてきただけに、どのような着地点に収まるのか、期待を抑えきれない……そんなところだ。

『ついに、ついに、空の彼方の城へと至り、魔王との戦いに挑む、正義の魔法使いとその弟子!　愛しいお姫様との再会は、すぐそこだ――』

今は、ロザリーが相変わらずの強引な捏造ナレーションを行っている最中だ。

グレンとシスティーナは、しばらくそのまま、舞台上で待機。

一息つける時間であった。

「しっかしまぁ、こんなに穴だらけな『メルガリウスの魔法使い』は初めてだぜ……」

「まったくですね……後から後から、アドリブと後付けでストーリーを繋げたから、重要イベントがごっそり抜けてますね……」

そんな一時の待機時間の中、グレンはシスティーナとひそひそ声で会話する。

「代わりに、変なイベントがたくさん差し

込まれましたし……」
「そもそも、魔将星達の扱いが全体的に酷え」
「特に酷いのは、鉄機剛将アセロ＝イエロですよね……無敵の神鉄の身体はどこにいったんですかね？　なんか、私の銃の一発で退場しましたけど。〝実は私、一回撃たれただけで死ぬぞぉ！〟って」
　これほど無茶苦茶な展開なのに、観客達が完全にのめり込んでいるのは、ロザリーの口八丁のナレーションも大きいが、完全に、その場の無謀なノリと勢いの賜物であった。
　二組の誰もが、この公演を成功させようと、必死になった結果と言えた。
「まぁ……そんな苦労も、もうすぐ終わりだ」
「そうですね。後は、イヴさんが演じる魔王を、本来の筋書き通りの手順でやっつけて、終幕ですね……」
「あんなに道が曲がりくねったのに、結局、元の鞘に収まる辺り、ロザリーのやつ、これ一種の才能だよな……」
　と、その時だ。
『——そして、今、運命は、正義の魔法使いと魔王……二人の英傑を引き合わせる！　前世から繋がる因縁の対決の火蓋が、ここに切って落とされるのであった——』
　ロザリーのナレーションがついに尽きる。
　舞台袖から、時間管理をしている生徒が、演技開始の合図の手を上げる。
　すると、舞台裏で、オーウェルが予定通り（謎の魔導装置を操作して）、舞台上に霧の演出をしかけていき……背景スクリーンに投射した稲妻のエフェクトと共に、魔王の影がゆっくりと現れる。蓄音機から勇ましくドラマチックな楽曲が流れる。
「よし、白猫！　行くぜ！」
「はいっ！」
　いよいよクライマックス——最終決戦の始まりだ。
　グレン達は気を引き締めて、現れる魔王の影と対峙する。
　やがて、ゆっくりと霧の効果が晴れ、二人の前に姿を現したのは——
『〝よく来たな……ッ！　我に楯突く愚かなる魔法使い達よ……ッ！〟』
「……へ？」

——。

　その頃——楽屋裏にて。
「そろそろ、クライマックスが始まった頃かな……よし、もうすぐ私の出番だね」
　お姫様役のルミアが、着々と準備をしていた。
「本当にここまで皆で、よくがんばったよね……私もがんばらないと」
　ルミアが鏡の前でメイクをしながら、そう静かに闘志を燃やしていると。
「……あれ？」
　妙な物音を聞きつけて、ルミアの手が止まる。
「なんだろう、今の……声……？」
　キョロキョロと見回せば、周囲には誰もいない。
　皆、舞台の裏方作業で、猫の手も借りたいほど忙しく動いているからだ。
　だが……この部屋のどこからか、微かに物音と声が聞こえた……気がしたのだ。
「ええと、どこからだろう……？　なんか恐い……」
　ルミアは恐る恐る耳を澄まして、室内を回る。
　やがて、部屋の隅にぽつんと設置されているロッカーの前で足を止めた。
　間違いない。微かな物音と呻き声は、この中から聞こえてくるものだ。
「だ、誰かいるんですか……？」
　ルミアが恐る恐る、そのロッカーの扉を開くと。
　どさり。
　ルミアの前に、ロッカーの中に閉じ込められていた、とある人物が倒れ込んでくる。
　非常に高度な魔術ロープで、ぐるぐるの簀巻きにされているその人物は——
「んんん〜〜ッ！　んんーーッ！」
「えっ!?　イヴさん!?　どうしてここに!?　今、公演中じゃ——ッ!?」

——。

「ってぇ!?　なぁんで、お前がこんなタイミングで出てくるんだぁああああああああああああああああああああーーッ!?」
　会場中に、グレンの叫びが響き渡っていた。
　そう。渦巻く霧のエフェクトを割って、邪悪な黒いローブを颯爽と翻し、現れた魔王の正体は——なんと、セリカだったのである。
『〝くっくっく……よく来たな、正義の魔法使いよ！　我が闇の軍勢を全て打ち倒し、姫を救うためにここまで至った、汝の執念、褒めてやろうッ！〟』
　大慌てなグレンやシスティーナ、舞台裏や舞台袖の裏方組とは裏腹に。
　当のセリカは、もうノリノリであった。
　予定外も予定外だが、最早、このまま突っ切るしかない。
　ロザリーが最終決戦前の、最後のナレーションを入れている最中、グレンとセリカがひそひそ声でやり取りをする。
「ひそひそ！（ちょっと待て！　おいコラ！　イヴはどこへ行った!?）」
「ひそひそ！（ふん！　昔、お前を、虐めていたあんな性悪女は知らんっ！）」
　ぷいっ！　と。実に子供っぽくそっぽを向く、大魔王様。
「ひそひそ！（大体、お前もお前だッ！　なぁんで、私より先に、あんな女を頼ったんだよ!?　酷いじゃないかっ!?）」
「ひそひそ！（だ、だって、裏方ならともかく、舞台にお前を上げたら、何もかも滅茶苦茶になるだろうが!?）」
「ひそひそ！（そもそも、最近、お前、私のこと全然、構ってくれないしっ！）」
「ひそひそ！（だから、最近は文化祭の準備で忙しくてさぁ!?）」
「ひそひそっ！（えぇい、うるさいうるさいうるさいっ！　忙しいからって母親を放置する悪い子はお仕置きだッ！　寂しさのあまり、私は再び闇落ちしたんだもんッ！）」

「ひそひそっ！（だもん、じゃねえよ!?　ちっくしょおおおお！　またこのパターンかよぉおおおおおおおおおおおおーーッ!?）」
　頭を抱えて嘆くしかないグレンであった。
「ひそひそっ！（ちょっと、先生！　またアルフォネア教授を放置したんですか!?）」
「ひそひそっ！（まったく、アンタ、なんてことしてくれてんだっ!?）」
「ひそひそっ！（どう責任取ってくれるんですかっ!?）」
　隣のシスティーナから、舞台袖の二組の生徒達から、非難のヒソヒソ声が一斉にグレンへ殺到する。
「（くそっ！　まるで俺が悪いみたいな流れになるのも同じかよ!?）」
　そして――
『幾星霜の時を超えた因縁、前世から定められし宿命の交錯！　さぁ、ここに運命の二人が激突する――その結末やいかに!?』
　ちょうど、ロザリーのやけくそなナレーションが尽きる。
　即ち、最終決戦の大立ち回り開始の合図である。
　その瞬間、魔王役のセリカの全身から、視覚化されるほどに圧倒的な魔力が漲り、グレンをシスティーナを、そして観客達を戦慄させた。
　存在するだけで、全てを圧殺するようなその絶望的な存在感と圧力。
　今のセリカは――まさに、魔王そのものであった。
「ククク……というわけで、だ。私の寂しさの埋め合わせをしてもらうぞ、グレン」
「ちょ、お前!?　ちょ――待て――ッ!?」
「ははは、大丈夫、大丈夫！　劇を無茶苦茶にするような無粋な真似はせんさ。ただ……私とお前で、クライマックスに相応しい最終決戦とやらを演じようじゃないか？」
　ぼっ！　セリカの右手に燃え上がる圧倒的焦熱、熱紅蓮の炎。
　かっ！　セリカの左手に漲る壮絶なる氷結地獄凍気。
　ばりばりっ！　セリカの頭上に高まる凄絶なる稲妻乱舞。
　にま～っと笑うセリカに、グレンは戦々恐々と後ずさるしかない。
「久々、私とお前でガチの魔術戦だ。いやぁ、楽しくなりそうだなぁ？」
「う、うおおおお、冗談じゃねえ!?　ぐ、【愚者の世界】!?　愚者のアルカナは――って、そんなん、今、持ってるわけねーだろ、ド畜生ォオオオオーーッ!?」
　会場に、グレンの悲痛な叫びが響き渡り――
「さぁ、行くぞ！　《《吹っ飛べ》》！」
「ひ、ひぇえええええええええええええええええええええーーッ!?」
　舞台上に、無駄に高度な技量で、壮絶な魔術が炸裂するのであった――
　後に、二年次生二組の公演を見た者は語る――
〝世界の始まりと終わりを彷彿させるような、凄まじい最終決戦だった〟
〝この生涯、もう二度とあのような舞台劇に出会うことはないだろう〟
　――と。

　――――。
　そして――全てが終わって（より正確には、存分に暴れたセリカが満足して、自主的に退場してくれた後で）。
　感動的なエンディングBGMが流れる中で。
「〝ずっと……ずっと、お会いしたかったです、魔法使い様……〟」
「〝ああ、僕もだよ、姫……〟」
　静寂に包まれた舞台の真ん中で、ヒロイン役のお姫様を演じるルミアと、グレンがしっかりと抱き合っている。
「〝私は信じていました……きっと、魔法使い様が、私を助けてくれると……〟」
「〝ああ、遅くなってごめんよ……もう、僕は君を離さない……〟」
　魔王との激闘を乗り越えた果ての、二人の再会。
　運命は悲劇的に分かたれた二人を再び引き合わせたのである。
　これまで観劇ですっかり感情移入してしまっている観客達は、はらはらと涙を流しながら、そんなエンディングを見守っている。
　一方、舞台袖では――
「あー、しんどかった……ようやく終わったわ……」
　全ての役を終えたシスティーナが、グレンとルミアの舞台を見守っていた。
「ん。お疲れ、システィーナ」
　そんなシスティーナへ、リィエルがジュースのコップを差し出す。
「ありがとう、リィエル。……あ、これ、よく冷えてて、すごく美味しい！」
　システィーナは、受け取った白ぶどうジュースを、喉を鳴らして一気に飲む。
　ここまで来れば、もう後は幕を下ろすだけだ。
　裏方の生徒達も、ようやっと安堵の息を吐いているようであった。
　その一方――
「あの……イヴさん……その、元気出してくださいね？」
「…………………」
　隅っこの方で、イヴが一人膝を抱きかかえて、ずーん、と暗く沈んでおり、セシリアがそんなイヴを慰めている。
（色々ごめんなさい、イヴさん……今は気遣う余力がなくて……）
　システィーナは、そんなイヴへ、心の中で手を合わせるしかないのであった。
　そして――
「ひそひそ（演技とはいえ、なんだか恥ずかしいですね……）」
　グレンを抱きしめているルミアが、はにかみながら、そう言った。
「ひそひそ（ま、まぁな……こういうシーンがあるから、本来はウェンディが務めるはずだったんだもんな……）」
「ひそひそ（あはは、そうですね……）」
「ひそひそ（その……やっぱ、嫌か？　こういうの）」
「ひそ……（ううん、全然。むしろ役得かなぁ、なぁんて？）」

「ひそひそ（ん？　今、なんつった？　さすがに小さすぎて聞こえなかったぞ）」
「ひそひそ（ふふ、なんでもありません。ほら、そろそろ、ロザリーさんの締めのナレーションが入りますよ？　先生が最後の台詞を言って終幕です。……どうか、びしっと締めてくださいね？）」
「ひそひそ（お、おう……）」
やれやれ、紆余曲折あったけど、なんとかなった。
グレンがすっかり安堵しきっていた……まさにその時だった。
『――こうして。二人は幸せなキスをして、一緒に末永く幸せに暮らしましたとさ。めでたし、めでたしっ！』
――とんでもない爆弾が投下されていた。
「……は？」
「え？」
まったく予定にないナレーションに、思わず硬直するグレンとルミア。
「な、な、な……ロザリーさんっ!?」
同じく硬直するシスティーナ以下、二組の生徒達。
「「「「おおおおおぉ……」」」」
「「「「きゃあああ……」」」」
そして、予想外の展開に沸き立つ観客達。場が、奇妙な空気でざわつき始めていた。
そんな中、ロザリーが、ドヤ顔で胸を張っている。
「いやぁ、原作の『メルガリウスの魔法使い』は、最後、キスシーンで終わるじゃないですかぁ？　なのに、なぜかこの台本、その一番肝心な部分が抜け落ちてたので、アドリブで追加しました！　できる女と褒めてくださいですぅ！」
「（アホォオオオオオオオオオーーッ！　学生の舞台劇に、そんなシーン入れられるわけねえだろがぁああああああああああああああーーッ！）」
グレンは心の中で叫ぶしかない。
公演中でなければ、ロザリーに容赦なくブレーンバスターをかましていたことだろう。
「ちょっ！　えっ!?　ちょっ！　待っ……キス!?　えええええええーーッ!?」
一方、舞台裏のシスティーナは顔を真っ赤にして大慌て。
ざわざわざわざわ……
そして、観客達は何かを期待するように、舞台上の二人を見つめている。
舞台劇には、流れというものがある。
これはもう、ちゃんとナレーション通りにキスをして終わらないと、大失敗に終わる流れであることは、最早、自明であった。
「ひそひそ（お、おいおいおいおいおい!?　ま、マジかよ……ッ!?　くっそ、セリカの最終決戦の時よりピンチだぞ……ッ!?）」
不運なことに、グレンとルミアの観客からの立ち位置は悪すぎた。これでは、キスした振りで誤魔化すこともできない。
グレンがどうしたら良いかわからず、まさか本当に、こんな公衆の面前でルミアとキスするわけにもいかず……ただただ狼狽えるしかない。
時間はない。これ以上、展開を引き延ばすことはできない。
だが、それでもグレンが何もできずにいると。
「ひそひそ（し、仕方ありません……）」
ルミアが、意を決したように、グレンと向きあった。
「ひそひそ（ルミア？）」
「ひそひそ（こうなってしまった以上、やるしかありません……わ、私は大丈夫です……覚悟しました……これは演技……その、演技ですから……）」
見れば、ルミアは顔を真っ赤にして、それでも真剣な表情で、真っ直ぐグレンを見つめている。
「ひそっ（ちょっ!?　おま、ルミア!?　待っ――）」
「ひそ……（し、失礼します……）」
そうして、ルミアがそっと目を閉じて。両手でグレンの顔をやさしく挟んで。
そっと引き寄せるように唇を、グレンの口元へと近付けていって……
近付けていって……
「……ッ!?」
まさに、グレンとルミアの唇が重なろうとしていると。
『あっはははははははははははははははははははははーーッ！』
舞台上に、それを遮るような高笑いが響き渡り、二人の動きが硬直する。
「こ、今度は何事だよ!?」
「〝ククク……私ですよ、お師匠様〟」
見れば、舞台の端に、先ほど倒したはずの魔王の衣装に身を包んだ少女が、颯爽と現れていた。
その少女の正体は――
「し、白猫ぉおおおおおおおおーーッ!?」
「「「「えええええええええーーッ!?」」」」
まさかの展開に、会場内は観客席も舞台裏も、阿鼻叫喚の大狂騒に包まれていた。
「ば、バカ野郎!?　お前、何してんだよ!?　正義の魔法使いの弟子は、最終決戦で師匠を庇って死んだじゃねーか!?」
「〝よ、蘇ったんですよッ！〟」
顔を真っ赤にしたシスティーナが、ふかーっとまくし立てる。
「〝散り際に魔王が言ったの、もう忘れていたわけ!?　たとえ、魔王が倒れても、やがて第二、第三の魔王が現れると！　ええ、そうよ！　ずっとお師匠様の影として生きてきた私は、本当はあなたが憎くて、それで闇落ちしたんですっ！　決して、先生とキスなんて羨ましいとか！　ルミアずるいとか！　なんとか妨害しなきゃとか！　そんなことは一切合切、これっぽっちも思ってませんからねッ!?〟」
「何、言っちゃってんの、お前!?」
何か、システィーナの様子が明らかにおかしい。
システィーナの顔は耳まで真っ赤だ。どこか焦点の合ってない目も、ぐるぐると混沌として濁っている。どうにも足下がフラフラしており、今にも倒れそうだ。
（ま、まるで、何かこう……酔っ払っているかのようなこの症状……まさか……

ッ!?」

だが、その真偽を確かめている暇はない。

「〝さぁ、出でよ！　我が億百の眷属達よ！　総出で、かの魔法使いを倒すのだ！　姫を我が手中に収めるためにッ！　早く出て来なさいよぉ！　命令よッ！〟」

システィーナの暴走は続く。

『え、えええ？　こ、これをフォローするには……あああっとぉう!?　新たな第二の魔王の権能によって、今までやっつけた魔王軍が不思議な力で全員復活しましたっ！　さぁ、二組の皆さん、総出で魔法使いを倒してください！　今すぐに！』

ロザリーも場を収めるため、ノリと勢いで乗ってしまう。

すると。

「ええい、なんだか状況が、サッパリわからんが……やってやらぁ！」

「そ、そうですわねっ！」

ようやく眠りから覚めたらしい、カッシュやウェンディら役者組達が。

「「「「もうヤケクソだぁああああああーッ！」」」」

そして、裏方の生徒達が、新生魔王軍として続々と舞台に上がった。

「なるほど、そういうことなら！　敵役として出し損ねていた『ダブルヘッド・スーパードラゴンキマイラくん４号』も投入するかぁ！　ぽちっとなぁ！」

ここぞとばかりにオーウェルも乗って。

「チャンス！　ぶ、舞台に上がるチャンスだわッ！　別に私は興味ないけどッ！　でも、一応協力すると約束した以上、ちゃんとやらないと！　私は嫌だけど！」

イヴもここぞとばかりに、あたふたと舞台に上がって。

「ほほう？　ならば、別に倒された魔王が復活して再登場するのもアリだろう？」

「ん？　また出番？　がんばる」

セリカやリィエルまで、舞台に降臨してしまう。

「お前ら、何考えてんだボケぇええええ!?　劇が滅茶苦茶になるだろうが!?」

「最初から滅茶苦茶だったじゃない!?　なるようになれよ!?」

叫くグレンに、明らかに正気じゃないシスティーナが吠えて。

「あ、あははは……なんか、最後はやっぱり私達らしいね……」

ルミアは苦笑い。

「「「「これからが真の最終決戦だったのかぁあああああーーッ!?」」」」

「「「「ぉおおーーッ！」」」」

観客達は、諸手を挙げて大興奮。

「えぇと……皆さん、あまり無理しないでくださいね？　怪我したら私が看ますから」

舞台袖でセシリアが、心配そうに苦笑いして。

『さぁ、お姫様は一体、誰の手に!?　正真正銘の最終決戦！　仁義なきお姫様争奪バトルロワイヤルの始まりだぁああああーーッ！　レッツファイッッッ！』

「どうしてこうなったぁああああああああああああああーーッ!?」

ロザリーの煽りに、グレンの悲鳴がアンサンブルして。

「「「「うおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおーーッ！」」」」

舞台上に爆炎が吹き荒れ、稲妻が乱舞し、吹雪が渦を巻く、地獄の戦闘空間が、再び出現するのであった――

…………。

………。

……。

そして――

「まったく、酷い目にあったぜ……」

全身ボロボロで煤だらけのグレンが、いかにも不機嫌そうに呻いていた。

「もう文化祭なんて、金輪際二度とゴメンだ……」

「あはは……」

頭を抱えるグレンを、ルミアが宥めている。

そんなグレン達がいる場所は、魔術競技場。

もう辺りはすっかり暗く、夜の帳が降りている。

競技場の真ん中では櫓が組まれて篝火が焚かれている。

その周囲を輪になって、学院中の生徒達が集まり、音楽に合わせ、フォークダンスを踊っていた。

伝統的な文化祭の後夜祭の時間だ。

即ち、もうすぐ今年の文化祭は、ついに終わりを告げるのである。

「ったく……あんだけ頑張ったのに、結局、優勝は取れなかったしな！」

「まぁ……投票では、他所のクラスに圧倒的大差をつけて、勝ったみたいですけど……借りてた講義室をあそこまで破壊したら仕方ないですよね……」

システィーナも正気を取り戻したらしく、どんよりとした目で沈んでいる。

「グレン？　システィーナ？　疲れたの？」

ただ、リィエルだけは、いつもと変わらずキョトンとしていた。

「疲れたんだよ！　ったく、くたびれもうけの骨折り損たぁ、このことだぜ！」

グレンはイライラと苛立ちを抑えようともしなかったが。

「それでも……ふふっ、楽しかったですよね？」

ルミアがにこやかに笑った。

するとグレンは、ふと押し黙って。

「…………まぁ、な」

ぼそり、と。そっぽを向きながらバツが悪そうに呟くのであった。

「来年もこんな風に、皆と一緒にわいわいできるといいですね」

「今年みたいにハチャメチャなのはもうカンベンだけど……そうね」

システィーナも髪をかき上げながら、夜空を見上げる。

「やれやれ」

グレンが肯定も否定もせず、肩を竦めていると。

少し離れた場所に背を向けて佇むイヴを見つけ、声をかける。

「あー、イヴ？　残念だったな？　舞台出られなくて」

「は!?　残念!?　私が!?」

イヴが、ばっ！　と振り返る。

「別に!?　ていうか、もう本っ当に、最悪！　やっぱり、文化祭なんていう浮ついたイベントに関わるべきじゃなかったわ！　なんなのよもう〜〜ッ！」

そんな苛立ちを隠そうともしないイヴへ。

「まぁ……良かったら、来年の文化祭は、俺達と何かやるか？」

「や、やらないわよっ！」

顔を真っ赤にして、ぷいっとそっぽを向くイヴ。

（ま、来年になったら、また、〝力を貸してくれ〟とお願いしてみるか……）

素直じゃない同僚に、グレンが苦笑していると。

「おおおお〜〜いっ！　先生〜〜ッ！　一緒に踊らねえかぁ〜〜ッ！」

篝火が焚かれている中央の方から、声がしてくる。

見れば、二組の生徒達がグレン達に向かって手を振っている。

そこには、ロザリーも、オーウェルも、セシリアも、セリカもいる。

昼間、あんなことがあったというのに、皆、どこか笑顔で嬉しそうだった。

結局、なんだかんだで……皆、今日という一日が楽しかったのだ。

「ま、たまには悪くねーか、こういうのも」

グレンが苦笑いで立ち上がり、二組の生徒達の方へと歩き出す。

「そうね、せっかくだし踊ろっか？」

「うんっ！」

「ん」

三人娘達もそれに続く。

「ふん。まぁ……付き合ってあげるわ」

イヴも渋々といった雰囲気で続く。

「ふふふ、先生？　私と一緒に一踊りどうですか？」

「なっ!?　ちょ、ルミア……そ、それは……ッ!?」

「大丈夫だよ、システィ。別に先生を独り占めはしないよ？　ちゃんとシスティにも代わってあげるから」

「えっ!?　いや、私、別にそうじゃなくて——ッ！」

「踊る……なんか楽しそう。わたしも一緒にグレンと踊る」

背後で姦しい、三人娘達の存在を感じながら。

「……ふっ」

グレンは、密かに笑みを零すのであった。

終始、混沌の渦中にあった、二組のアルザーノ帝国魔術学院文化祭。

その後夜祭の優しい時間が、ゆっくりと過ぎていき、夜が更けていくのであった——

（おわり）

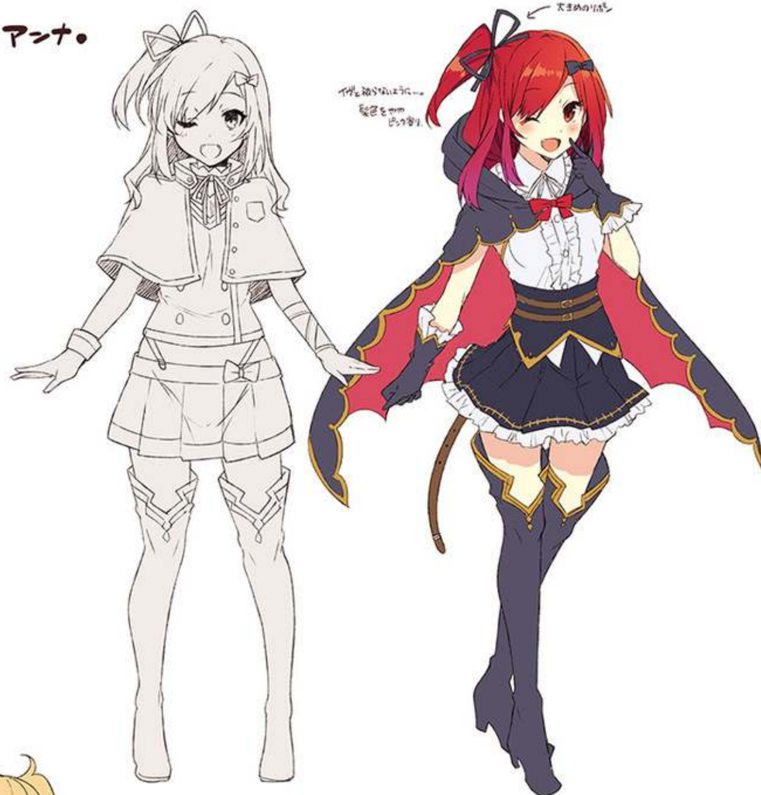
アリシア女王(38)
カラーパターン
ワインレッドとかの方が良い?
フリルもうちょい細かくても いいかも

レーン
(19)
173cm
ポニテ上
下
うーむ。
美乳。

・リディア(20)



• ニーナ (15)
かなり
中性的な
ような…
ばんそうこう
ブーツがちょっと大きい



• アンナ •
大きめのリボン
イザと被らないように…。



• イリア＝イルージュ



オッドアイにしてます。
• サイラス＝シューマッハ




・ループモード・
代案
● エレン＝クライトス ●


・フォーゼル・


● シオン.
まえ.
よこ.
● グレンにシルエットが似てる…?
ヒモで通してある.
● ペンダント
真下から見た図




バーナード(60)
胸がぱつんぱつん


クリストフ(17)






フード有
フードの中身。

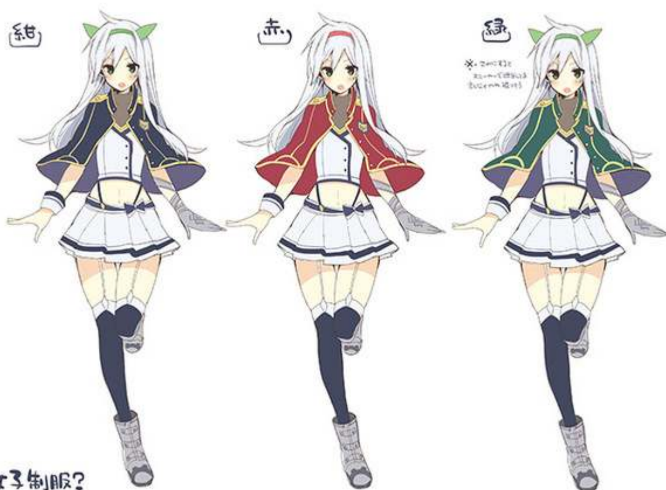

レイク=フォーエンハイム (30~)
目ハイライト無し
ダーク ジャケット?
魔法で出てくる剣
← 実際は光ってる


エレノア(25)
ショート
ロング


ロッド
カイ
アルフ
目は隠れてます
ビックス
ちゃらい?
シーサー







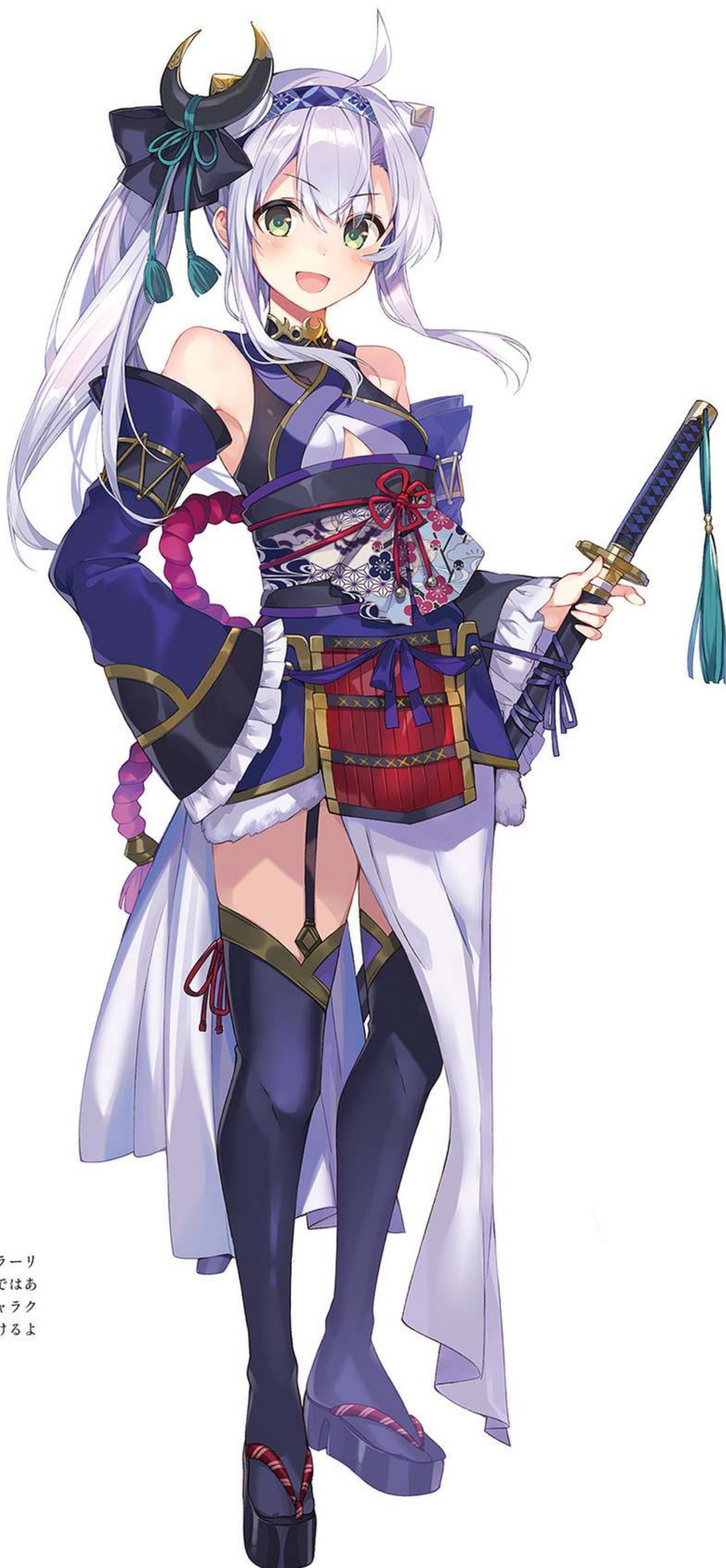


Comment

カラーでは登場していないキャラクターもカラーラフがあったりするので、こういった機会で公開されるとドキドキしますね・・・！アルザーノ帝国魔術学院の制服も、こうしてみると色々カラーパターンがありました。

キャラクター設定画


月刊少年エース2016年12月号
ふろく　2016年



Comment

和装システィーナ再び！　カラーリングは制服イメージで、和装ではありますが「ロクでなし」のキャラクターだとしっかり分かって頂けるようにしています。

ファンタジア文庫大感謝祭
イラスト　2019年



あとがき

まずは本書をお手に取って頂きありがとうございます！
初めての方は初めまして、画集第１弾を既にお持ちの方はちょっとお久しぶりです、三嶋くろねです！

お陰様で、第２弾も無事に世に出して頂くことができました…！
第２弾では、第１弾に収録されていなかった短編集『追想日誌』のイラストだったり、三嶋へのインタビューなども見ることができます。
個人的に、短編集の方は、キャラの指定と大まかなシチュエーション指定を頂く以外はほぼ自由にやらせて頂いていて、かつ「ロクでなし」の日常感を1枚絵にできるのでどれもお気に入りだったりします。逆に、シチュエーションの無い表紙専用イラストの方が「このキャラはどうしよう!?　どういう表情をさせよう!?」と迷う事もあるので難しいですね…！

色々描かせて頂いてきましたが、本編や短編集の「ロクでなし」の世界に触れる時に、この画集が少しでも皆様の想像する物語のお手伝いができたら幸せです。

第１弾から引き続き、本書制作に携わって頂いた方、短編を書き下ろして下さった羊先生、いつもお世話になっている担当様方、心よりの感謝を申し上げます。

まだもう少し本編は続きますので、皆様と共に私も最後までグレン先生達の物語を見届けたいと思います！
では、またどこかで！

みしま
くろね



ロクでなし魔術講師と絵画回想（ギャラリーレコード）

三嶋くろね画集

vol. 2

KADOKAWA







ロクでなし魔術講師と絵画回想（ギャラリーレコード）

三嶋くろね画集

vol. 2

KADOKAWA

Reminiscence paintings of bastard magic instructor
Mishima Kurone Art Book





ロクでなし魔術講師と絵画回想（ギャラリーレコード）
三嶋くろね画集 vol.2

著者　三嶋くろね
著者　羊太郎

2021年8月20日　発行
ver.001

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
『ロクでなし魔術講師と絵画回想 三嶋くろね画集 vol.2』
2021年8月20日　初版発行

発行者　青柳昌行
発行　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ
https://www.kadokawa.co.jp/

●お問い合わせ
https://www.kadokawa.co.jp/　（「お問い合わせ」へお進みください）
※内容によっては、お答えできない場合があります。
※サポートは日本国内のみとさせていただきます。
※Japanese text only

装丁・デザイン
草野剛デザイン事務所（草野剛・近藤ひろ•佐野ゆかり•藤田峻矢•井上寛・西山愛香・濱田郁）